

カラスガレイ オホーツク公海

Greenland Halibut, *Reinhardtius hippoglossoides*



管理・関係機関

水産庁、水産研究・教育機構

漁業の特徴

オホーツク公海はロシア水域に囲まれ、本資源は周辺のロシア水域大陸棚斜面に分布する資源と連続すると考えられる。1980年代半ばに、北海道漁船（知事許可船）が本資源を対象に公海で底刺網の試験操業を開始し、まもなく本格操業に移行した。1992年以降、公海での操業と並行してロシア水域での操業が行われたが、2001年以降はロシア水域での操業は許可されておらず、公海のみの操業となっている。本資源の漁業は、2000年度に北海道知事許可漁業から大臣承認漁業に移行し、さらに2007年度に特定大臣許可漁業となった。海氷が発達する12～4月は休漁としている。漁業開始時の1980年代には5～6隻が出漁し、使用網数は1,600百～2,400百反程度であったが、操業隻数の減少とともに網数は減少し、2000年代半ば以降は100百～400百反程度となった。直近の2016年は、漁期中に2隻が操業し、網数は469百反であった。なお、本資源を対象とした他国の漁業はない。

生物学的特性

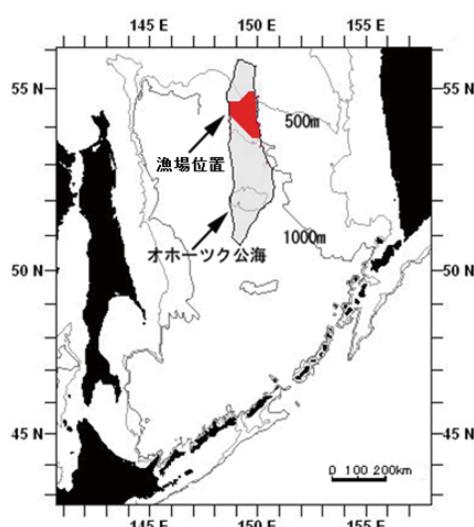
- 体長・体重：標準体長 1 m・45 kg
- 寿 命：10 歳以上
- 成熟開始年齢：5～7 歳
- 産卵期・産卵場：秋～冬、オホーツク海
- 索餌期・索餌場：オホーツク海
- 食 性：スケトウダラなどの魚類及びいか類
- 捕食者：シャチなど

利用・用途

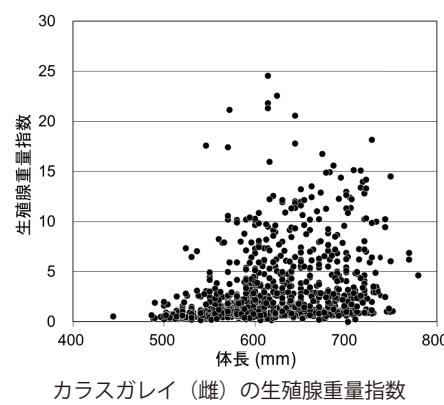
切り身や寿司ネタなどの惣菜用として利用される。

漁獲の動向

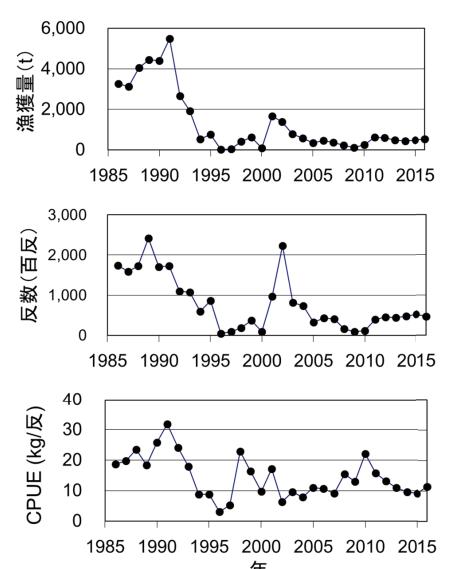
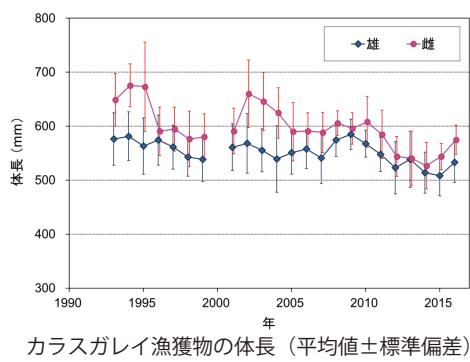
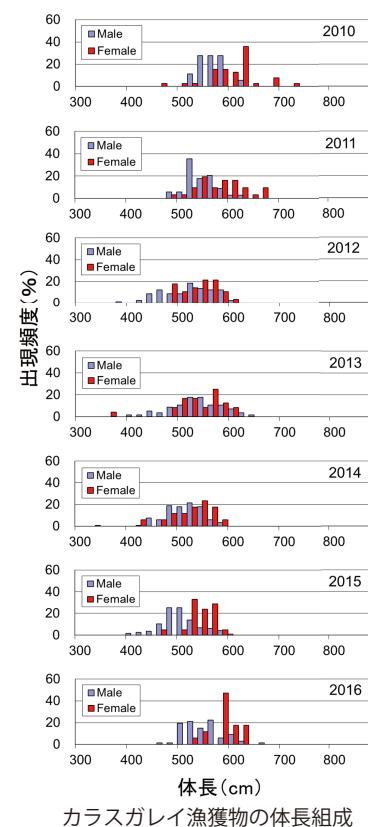
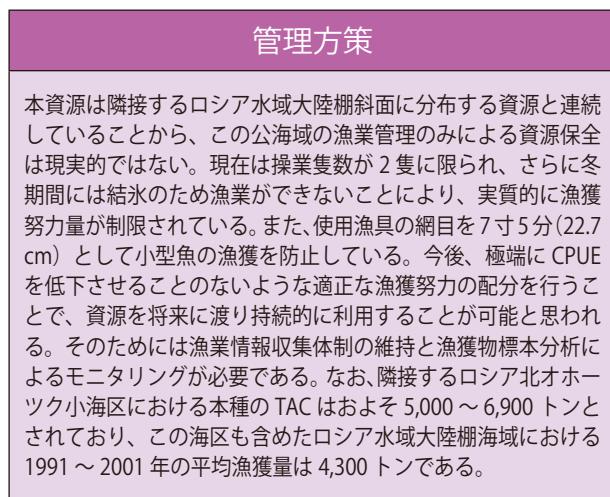
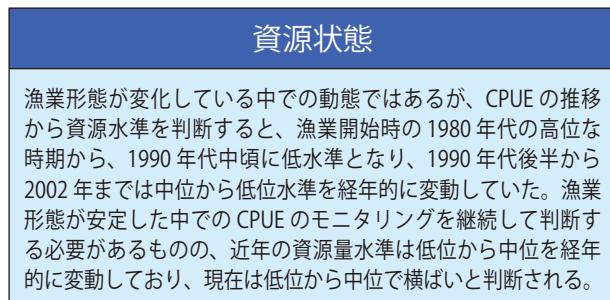
1980年代の漁業開始時の漁獲量は4,000トンを超え、CPUE（刺網1反当たり漁獲量）も20～30kg/反程度の高い値を示していたが、1990年代中頃に漁獲量は13～767トン、CPUEは3.1～8.8kg/反の低水準に落ち込んだ。1992年以降2000年まで、漁獲努力の一部がロシア水域に向けられていたことが、漁獲量の減少をもたらした一面はあるが、CPUEの経年的な変動は1990年代中頃の資源水準が低かった可能性を示している。公海操業のみとなった2001年以降では、漁獲量は119～1,672トン、CPUEは6.3～22.1kg/反で推移した。直近の2016年の漁獲量は534トンで、2015年（479トン）より56トン増加した。CPUEは11.4kg/反であり、漁業開始時と比較して低位から中位水準であった。



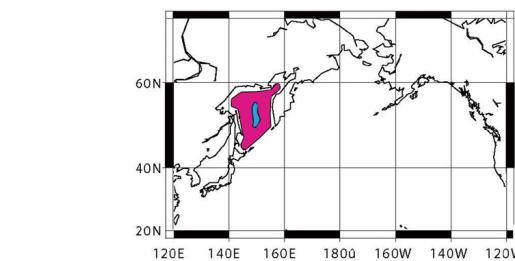
オホーツク公海における近年の漁場位置



カラスガレイ（雌）の生殖腺重量指数



オホーツク公海におけるカラスガレイ漁獲量 (上図)、努力量 (中図) 及び CPUE (下図)



オホーツク海カラスガレイ分布域 (赤) 及び漁場 (青)

カラスガレイ（オホーツク公海）の資源の現況（要約表）

資源水準	低位から中位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	オホーツク公海における他国の漁獲は確認されていない
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	450 ~ 628 トン 最近 (2016) 年 : 534 トン 平均 : 512 トン (2012 ~ 2016 年)
管理目標	資源水準の維持
資源評価の方法	CPUE (刺網 1 反当たり漁獲量) より水準・動向を判断
資源の状態	調査中
管理措置	操業船隻数許可、網目の結節から結節までの長さ 12 cm 以上、冬期間結氷のため休漁
最新の資源評価年	—
次回の資源評価年	—